

令和2年度 第16回 政策推進会議報告

日時 1月6日 9時30分～10時36分

場所 WEB会議室

出席者 18人

1 年末年始期間中の業務状況等について

危機管理安全局長から報告

- ・12月30日に暴風波浪警報が発令されたので、災害対策課で連絡員待機の態勢を取り、交代含め6名で対応した。幸いなことに被害はなかったが、最大瞬間風速が防災センターで16.6m、園田分署で17.2mと、比較的強い風が吹いた。
- ・12月28日から31日まで、生活安全課で街頭犯罪防止パトロールを車延べ4台、職員延べ4名で実施した。12月は市内でのひったくりは発生せず、令和2年の年間ひったくり件数は36件となり、前年よりも2件下回った。しかしながら、本日早朝にひったくりが1件発生しているので、引き続き身を引き締めて啓発を実施していきたい。
- ・年末年始に警察学校を舞台としたドラマを見たが、その中で生徒に「この学校を卒業すると、私は市民の命を背負うこととなります」と何度も復唱させるシーンがあり、私自身も改めて身が引き締まる思いがした。危機管理安全局ではこれまで経験のない状況に直面しており課題が山積みになっているが、局長が諦めてしまうとそこで取組が止まってしまうので、粘り強く着実に進めていくことを今年の抱負としたい。

総合政策局長から報告

- ・新型コロナウイルス関連の報道対応として、12月29日から1月3日までの6日間、広報課で各日1名が出勤し、記者発表資料について市政記者へのメール等での送付及びホームページへの掲載を行った。件数は6日間の合計で31件であった。
- ・1月1日から1月3日までの3日間、年始初の試みとしてA-Labをオープンしており、文化振興担当の職員が各日2名出勤し、展示会「fの冒険」の受付対応を行った。3日間合計で約40名の来場があった。
- ・総合政策局としては、ご承知のとおり次期総合計画の策定、政策調整、行財政改革の取組から、地域振興や人権施策、文化振興など幅広い事業を展開しており、コロナ禍の条件下ではあるが、着実に進めていきたい。また、市政全体を見たときに側面的ではあるが、コロナ対応の支援については、今後も最優先に取り組んでいきたいと思っている。

資産統括局長から報告

- ・庁舎管理課の警備室での夜間休日受付で、6日間で合計143件の届け出を受け付けた。主な内訳は、死亡届が91件、婚姻届が32件、出生届が8件で、ほぼ例年並みの件数の推移となっている。
- ・本庁舎整備工事で、議会棟の工事関連が30日まで続いていたので、合計2日間で2名ずつ出

勤した。

- ・税務系の新システムが令和3年1月から稼働するというので、その最終確認等を行うため、税務管理部の職員が29日に多数出勤し、データ移行の確認作業を行った。今のところ円滑に移行できている。
- ・例年であれば、ここ数年の安定的な税収入に支えられ行革プロジェクトの目標に向けた当初予算編成ができていたが、コロナ禍の中、来年度の予算編成については、税収等の見込みやコロナ関連予算も含めて、丁寧な説明を市議会等に行いながら取組を進めていきたい。

総務局長から報告

- ・先ほど資産統括局長から報告があった税務系システムの再構築に関連して、総務局では12月29日に3サービスセンターの職員と情報政策課の職員がシステム全体のテスト、1月2日に情報政策課の職員が動作確認作業で出勤した。1月4日以降、正常に稼働している。これをもって、数年かけて実施してきたオープン化に伴うシステム移行作業は全て完了したことになる。
- ・また、文書管理システムの更新のため、12月29日から31日にかけて職員が出勤し、移行確認を行った。こちらも1月4日から正常に稼働している。
- ・コールセンターの問い合わせ件数は、6日間で616件であった。昨年度は9日間で509件だったが、107件増えた。内容としては、今年はコロナ関連あるいはマイナンバー関連の問い合わせが120件近くあり、昨年までなかった問い合わせが増えている。
- ・国の方でもデジタル庁が創設されるなど、新しい生活様式に沿った行政サービスの推進ということで、押印廃止に向けた取組や、手続のオンライン化といったことについて、各局のご協力をいただきながら取り組んでいきたい。また、公文書管理条例制定に向けた取組についても、令和4年4月の条例施行に向けてしっかりと取り組んでいきたい。もう一つは、総合政策局長もおっしゃっていたが、コロナ関連の応援態勢の整備についても、引き続き各局と調整させていただきながら、しっかりと構築していきたいと考えている。

医務監から報告

- ・休日夜間急病診療所は、12月29日から1月3日の6日間、内科、耳鼻咽喉科、眼科、小児科を開けており、合計809名の受診があった。これは昨年度に比べると78.5%の減であった。なお、発熱患者の件数は232件で、そのうち14件はコロナウイルス疑いとして臨時診療所へ調査依頼を行った。
- ・口腔衛生センターは、12月29日から3日までの6日間、午前10時から午後1時まで開設し、110件の受診があった。これは前年度比で29%の減であった。
- ・斎場は、友引の12月30日と元旦は休業し、残りの4日間開設した。その間、大人76体の遺体を火葬したが、コロナ関連の遺体が4件あった。
- ・地方卸売市場食品検査所では、12月29日、30日に午前6時30分から9時45分まで、監視指導を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症対応として、発熱等受診相談センター、医療機関ホットラインを12月29日から1月3日の6日間、午前9時から午後5時まで開設し、合計534件の相談を受けた。臨時診療所は4日間開設し、39名の受診があったが、うち10名が陽性で26%の陽

性率であった。衛生研究所では6日間で413件の検査を実施したが、うち374件は濃厚接触者の検査であり、臨時診療所や高齢者施設等に出向いて検体採取を行った。6日間の陽性患者数は合計175名であり、無症状者40名、軽症者135名だった。12月31日には市内で過去最多となる陽性患者の発生があり、1日で67名の報告となった。クラスターについては、介護施設で1件発生している。なお、年末年始の新型コロナウイルス感染症対応業務に従事した人員は、電話相談や疫学調査、臨時診療所、衛生研究所、患者搬送など合わせて、およそ延べ150名である。

- ・抱負としては、患者も増大しているし今後は予防接種も始まる。保健部は責任感が強い職員が多いので、心も体も折れないようにサポートしていきたい。

健康福祉局長から報告

- ・福祉関連では、通常の案件で6件、コロナ関係で11件、合わせて17件の対応を行った。
- ・通常6件の内訳としては、南部・北部保健福祉センターで、高齢単身又は高齢夫婦等の生活保護受給世帯における死亡について、病院や訪問看護ステーション、あるいは本庁警備室からの連絡を受けて、課長やSVなどが出勤や電話対応により処理を行っており、コロナ以外の死亡案件4件（病院3件、自宅1件）に対応した。また、訪問看護ステーションから生活保護ではない方の死亡について相談1件があり対応した。もう1件は、包括支援担当で、園田地域包括支援センターからアルコール依存症高齢者の今後の介護サービス受給についての話があり、協議調整を行った。
- ・コロナ関連の11件の内訳としては、南部保健福祉センターでは、クラスターのあった尼崎医療生協病院に入院していた生活保護受給者の死亡1件について調整を行った。包括支援担当では、コロナで入院できないケースへの対応について訪問看護連絡協議会との事前調整を1件、それと併せて実際に高齢独居・認知症陽性患者の入院対応1件を行った。法人指導課では、複数の職員が毎日出勤し、特養やデイサービスセンターなどで陽性者が判明した場合に、当該施設へガウンやフェイスシールド等の衛生用品の配布を5件行った。また、濃厚接触者のほか、濃厚接触者が特定されるまでの間の利用者についても、他の施設を利用しないようケアマネージャーや介護事業所との連絡調整など2件を行った。南部障害者支援課では、障害福祉サービス事業所の従事者のコロナ陽性の判明に伴い、濃厚接触者となった利用者のサービス利用内容の確認や代替サービスの検討等の対応1件を行った。
- ・令和3年は地域福祉計画を策定する年になるので、これを一つの契機として、色々なお声を聞きながら、また多様な団体と連携しながら、市が責任を持って地域福祉を率先して進めていく大きなきっかけの年にしたいと思っている。

こども青少年局長から報告

- ・コロナ関連として、年末に法人保育施設3ヶ所、公立保育所1ヶ所において、施設職員及び入所児童で新型コロナウイルスの陽性者が判明し、保健所との連絡調整等で保育児童部職員5名が出勤した。なお、当該公立保育所で濃厚接触者と特定された児童18名、職員4名はPCR検査の結果全員陰性で1月6日まで自宅待機となり、保育所としては1月4日から開所している。
- ・年末年始ではないが、「成人の日のつどい」について、市のホームページで1月11日開催の

お知らせを掲載している。当日はプログラムの配布時に注意喚起のビラ配布や、マイクによる感染予防についてのアナウンス、式典後の密を避けるためオンライン同窓会の実施等を呼びかける予定で、なんとか開催したいと考えている。

- ・新年も引き続き、課題を抱える子どもとその家庭への支援、待機児童の解消に向けての取組、市設置の児童相談所の開設に向けた準備、それから児童ケースワーカーの人材育成に努めていきたい。

理事（こども青少年局参与）から報告

- ・来年度、子どもの人権擁護のための委員会の設置が非常に大きな案件となっているので、準備をしっかりと進めていきたい。併せて、4月から県の見相がひと咲きプラザの中に設置されるが、それと共に市の見相の設置に向けての準備も始まっているので、そちらについても円滑に進めていきたいと思っている。また、青少年問題協議会の方でもユースワーク推進部会という形で、新たなメンバーが加わった。本市としても、今後ユースワークに強く力を入れていきたいので、尽力していきたいと思う。それに加えて、昨今特に困難な状況にある子どもたちの支援という中では、ヤングケアラー等の新たな課題が見えてきているので、そういった子どもたちの情報収集も含めて、対策を進めていきたいと思っている。

経済環境局長から報告

- ・年末年始のごみの収集については、多少問い合わせの件数が多かったものの、収集遅延や事故もなく実施できた。
- ・地方卸売市場は年末 30 日まで開場し、年始は初売りを 5 日に実施した。
- ・尼崎城は、28 日が月曜日で定休日だったため、年末は 27 日まで開城した。年始は 3 日からで、初日は 473 名にご来城いただいた。また、「特別御登城記念証付き入場券」を販売し、207 枚売り上げた。
- ・コロナ関連としては、事業継続支援給付金の申請期限が 12 月 28 日で、この日だけで 400 件の申請があり、結果的には 3,400 件の申請を受け付けたことになる。これは想定を非常に大きく上回る数で、年末 29 日に 21 名体制で処理を行ったが、現在も引き続き総合政策局にも職員の応援をいただきながら取り組んでいる。また、今週末の連休にも何十人か集めて作業を行う予定にしており、何とか 1 月中には支払いまで完了したいと思っている。
- ・今回のコロナ対応は色々と想定外のことが多かったという教訓を生かして、今後の経済対策にも生かしていきたいと思うし、リーマンショックの時にどのように取り組んだのかという記録が局としてきちんと残っていないため、今回の対応は後世のためにしっかりまとめておかないといけないという風に思っている。また、市報 1 月号の折り込みで気候非常事態宣言について市民の皆様へ投げかけを行っているが、私自身の生活の中でも我慢できる不便を見つけて、少しでも環境改善に取り組んでいきたいと思う。

都市整備局次長（代理出席）から報告

- ・12 月 30 日の暴風警報発令に伴い、同日 18 時から 22 時まで、道路維持担当 1 名が職場待機を行ったが、被害がなかったため特段の対応はなかった。
- ・これまで都市整備局では定住転入促進施策について若手職員を中心とした局内横断的なチー

ムで検討を進めてきたが、今後は局の重要課題等についても対象を拡大して、こういったエリアマネジメントの考え方で解決に向けて取組を進めていきたいと考えている。また、新型コロナウイルス感染症対策関連で必要な応援については、局内の体制を整備のうえ、できる限り対応させていただきたいと思う。

消防局長から報告

- ・年末年始の災害件数は、6日間で33件あり、対前年度では7件の増となった。33件の内訳としては、火災は1件だけであるものの、その火災で煙を吸ったことによる負傷者が1名出ている。次に、救助件数が7件で、そのうち高齢者の閉じ込め救助事案が5件であった。その他の25点については、自動火災報知設備の誤発報や油漏れ等の軽微な案件だった。なお、昨年1年間の火災件数は82件で、2年連続で2桁に収まった。
- ・救急件数は、6日間で517件あり、対前年度では81件の減となった。この517件のうち、約7割が65歳以上の高齢者である。救急の主な内容としては、最近では減ってきたが、餅を喉に詰めたという事案が1件あり、60歳の男性が重症である。あとは、CPAいわゆる心肺停止状態での搬送が13件あり、そのうち11件は65歳以上の高齢者であった。また、季節性のインフルエンザは全くなかったが、コロナ関係の搬送が33件あり、このうち12件がPCR検査で陽性であった。なお、年間救急件数については2万8,411件で、一昨年より約3,200件の減となった。
- ・今年の抱負としては、個人的なことだが、いよいよ定年退職に向けて最後の年となるので、コロナが収まってほしいという思いがあり、仕事に対しては、守りに入らず、とにかく攻めの姿勢でやっていきたいと思っている。

議会事務局長から報告

- ・年末にコロナ感染者及び濃厚接触者となっていた議員2名は、療養・自宅待機期間を終えて4日から通常どおり登庁している。
- ・コロナの感染拡大が続いているが、来月から開催される次期定例会については新年度予算を審議する大切な議会となるので、感染防止に十分に注意を払いながら万全を期して臨みたいと考えている。また、今年は4年に1度の市議会議員の選挙の年となっており、議会構成も変わることになるので、改選後の新議会がスムーズにスタートを切れるようしっかりとサポートしていきたいと思っている。

教育次長から報告

- ・年末年始に市立学校関係者で7名のコロナ陽性者が出たが、特に学校運営に支障がなかったため、電話やりモートで学校と連絡調整を行い、出勤には至らなかった。
- ・年末30日まで施設担当所管の小学校等の工事が行われていたため、職員3名が出勤して対応した。
- ・幸いにも市立学校ではコロナのクラスターは発生していないが、感染者は出ている。学校での感染ではなく家庭内での感染が見られているので、児童生徒・保護者への注意喚起等、学校と連携して引き続き取り組みたいと思う。また、GIGAスクール構想とか、市立尼崎高校のカリキュラム改革等も推進していきたい。何より、来年のこの時期には中学校給食が開始に

なるため次の予算議会には関係条例や予算が出てくるし、今年4月からは学校給食費の公会計化も始まるので、こうした取組を学校現場、生徒・保護者等にもしっかり説明して進めていきたいと思っている。

教育長から報告

- ・教育関連では、昨年歴史博物館ができて、今年は児童生徒1人1台のPC環境になり、来年の今頃には中学校給食が始まるということで、市政にも尼崎市の教育史にも名が残るような大きなプロジェクトが立て続けにあるので、しっかりと市の教育のイメージの向上に繋がるように、環境整備だけでなく、きちんと中身も詰めて良いものにしていきたいと思っている。あと、コロナ関係としては、年末から全体の感染者が増えるのと合わせて子どもや教職員の感染者もやはり増えているところがある。少し心配しているのは、イギリスが一昨日ぐらいにロックダウンを更に強化させたことで、そのイギリスの対応としては、小学校だけは引き続き開校しながら、中学校・高校は休校とするような内容になっている。それはなぜかという、変異型のウイルスは感染力が強く、実はイギリスの中高生の感染率が他の世代に比べて一番高いというデータがあるようだ。現在、日本では子どもは重症化しないし移りにくいと言われているが、この変異型が仮に広がった場合、特に中高生は他の世代と同じように広がる可能性があるので、どうすれば抑制することができるか等、きちんとシミュレーションして、感染爆発したときに適切に対応できるようにしていきたいと思っている。コロナも含めてだが、とにかく子どもたちの命を預かっている立場なので、安全には最優先で取り組んでいきたい。

公営企業管理者から報告

- ・水道関係では、上水・下水共に特に大きなトラブルはなかった。年末年始期間中に、修繕で6件、漏水の確認で11件、延べ12名の職員で対応した。神崎浄水場では、12月31日と1月3日に職員が出勤して定期的な水質検査をしている。
- ・ボートでは、12月25日から30日まで6日間、「今年もありがとう競走」を実施した。売上は1日あたり平均2億6千万円で、前年比1.5倍となったものの、入場者は2,950名で、前年から約8%の減となった。ただ、12月30日は暴風のため後半のレースが中止となっており、それが最終日の優勝戦を含む3レースだったので、売上げ的には残念なところがある。また、例年1月上旬に純烈に来ていただいてライブやレースを行っていたが、残念ながらコロナの関係で今年は中止となっている。
- ・抱負としては、水道の方は、配水ブロック化や本市で最も口径が大きく水道の大動脈である10号配水本管の更新に取り組んでいくので、雨水対策等を十分に行っていきたいと思っており、市民生活に影響が出ない形での工事を考えている。下水の方では、ビジョンの策定を進めており、11月に答申をいただけるようにしっかり取り組んでいきたいと思う。ボートは、デザインビルドの工事があと1年後で、令和4年2月の完成を目指している。もう観覧席等はほぼ完成しているので、コロナが心配な中ではあるが、ぜひご来場いただきたい。最近特に電話投票売上が非常に順調なので、収益も十分に確保して、市財政に引き続き貢献していきたいと思っている。ボート業界全体を見ると、今年度の市場は1兆5千~6千億円規模だったが、来年度は2兆円規模を見込んでいるということなので、本市も取り残されないよう

に収益の確保に努めていきたいと思う。また、コロナ対策等で人員が必要であれば、ご相談いただければ引き続きできる限り協力していきたい。

吹野副市長から報告

- ・年末年始は、やはり保健所や衛生研究所が気になっていたもので、29日に職場訪問させていただいた。その時は、衛生研究所であれば1日おきに休みが取れるという予定だったが、それから急激に陽性者が増えたので、結果的に6日間ずっと出勤していただくことになってしまい、非常に申し訳ないと思っている。そのような中で、各局の皆さんからは休み中でも必要であれば応援に行くという申し出を自発的にいただき非常に嬉しく思った。
- ・この年末年始は外に出歩くことがあまりなかったので、断捨離という少しオーバーだが、家の不要なものを処分した。これは職場もそうだが、いらぬもののため込んだ結果、必要な情報にアクセスするのに時間がかかるということがあがるが、大量にごみを捨てたことによって身も心も少しクリーンになったかなと思う。

森山副市長から報告

- ・年末年始、コロナ関係や事業者の支援など、職員の皆さんが活躍してくださったことに対し感謝したい。
- ・1月4日付けで市長から辞令をいただき、新しい任期がスタートした。前任期で言えば、前半はいわゆるソフトというか、民生部門中心に業務を行ったが、今はどちらかというと、私が現職のときから携わっていたハード部局を主に担当させていただいている。やはり尼崎では自治のまちづくりが息づいてきたというか、きちんと軌道に乗っているような状況にあると思うが、それを支えるためにハード面をどう整備していくのかということが大事だなという風を感じているところである。また、これまでも生涯学習プラザをはじめとして、ファシマネ計画の中でたくさんの施設の統廃合を行ってきたが、それらがまちのイメージの向上や魅力に繋がっているということをきちんと発信していけるような1年にしていきたいと考えている。それから、昨日は市長と共に商工会議所の賀詞交歓会に出席したが、事業者の方と「本当のところ景気はどうか」という話をすると、小さな兆し、例えばネジ1本の需給が進み出しているというようなことでその業界の景気を判断していくというようなことをおっしゃっていた。コロナ禍においては、皆さんにはそのような小さな兆し、小さな動きを注視してもらいながら、我々が今何をしなければならぬかということと共に考えていきたいと思う。

市長から報告

- ・この年末年始だけでなく、本当に昨年来、職員の皆さんの頑張りに改めて支えられているなど実感しており、本当に心強くまた誇らしく思っている。今年も色々大変なことが多いと思うが、この尼崎市役所のチームワークなら頑張っていけるとも思っているので、引き続きよろしく願います。
- ・私は今年のお正月も箱根駅伝や大学ラグビーを見て過ごした。今年の駅伝は最終区での大逆転劇というレース展開だったが、大きく順位が変動する区間もあれば、ずっと守りの走りをする区間もあり、それでもやはり10名それぞれが役割を果たすことが最後の結果に繋がる。

私達の仕事も、非常に長期にわたる仕事が多く、結果が見えやすい時期もあれば、なかなか結果が見えず手探りで踏ん張っていかないといけない時期もある。けれど、やはり先輩たちが繋いできたことにも思いを馳せ、そして未来に花開くであろうことをしっかりとイメージしながら、1年1年しっかり頑張っていくとけないという風に改めて感じた。

2 尼崎市自転車のまちづくり推進計画の改定（素案）に対する市民意見公募手続の実施について

危機管理安全局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- ・都市整備局で所管している会議体として、「尼崎の歩行者・自転車の安全・快適化計画検討協議会」というものがある。この協議会は、自転車のまちづくりを進めていくために、「尼崎市自転車ネットワーク整備方針」の策定などを目的として設置されたもので、国・兵庫県・尼崎市の道路管理者・尼崎市内各警察署で構成されている。また、本市の土木部長が会長となっており、市道だけでなく、国道や県道についても国や兵庫県などと協議し、本市が主体的に取り組んできたという経過がある。このような国道・県道・市道の道路管理者・交通管理者が自転車まちづくりを目的として一堂に会する場があるので、自転車まちづくり推進計画の改定についても情報共有していきたい。なお、この協議会は、整備方針の改定に向けた協議を終えた平成29年度末を最後に開催されていないので、この度の計画改定を機に再始動し、整備方針をはじめとする自転車まちづくりについて、関係者との協議を進めながら進行管理を行っていきたいと考えている。
- ・（市長）計画7ページの「自転車の走行環境整備」については、今ご発言いただいた別の方針があるということなので、しっかり接続していただきたい。また、計画の最後に成果指標を具体的な取組と一緒にまとめており、それぞれの所管局も記載している。非常に多くの局を跨ぐ計画になっているので、しっかりと横の連携も取りながら、毎年進捗の確認をきちんと行い施策評価に落とし込んでいくという形で、計画を上手に使っていただけたらなと思っている。各局には主体的な取組をぜひお願いしたいし、危機管理安全局には引き続きの取りまとめをよろしくお願いしたい。

3 （仮称）尼崎市子どものための権利擁護委員会の設置等に伴う尼崎市子どもの育ち支援条例の一部改正（素案）に対する市民意見公募手続の結果について

子ども青少年局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- ・（市長）条例名については悩ましいが、中身をしっかりと充実させていくことを優先させて取り組んでいるところである。この委員会については、実際に取組を進めながら作り込んでいくことになると思うが、やはり子ども自身が自分の権利についてしっかりと自覚できるようにサポートしていかないといけないということが強く言われている。これについては、私たち市職員や学校の先生方も含めて、大人の側がしっかりとそれを共有しないとなかなか実現しないという面があると思う。この条例を改正したからと言ってすぐに子どもたちを取り巻く風景が変わるわけではないが、これを契機として、緊急避難的な取組や、早い段階から専門性を持った機関が介入していれば悪化しなくてすむようなケースをしっかりとサポート

していきたいし、私たちの意識・行動を変えていく大きなきっかけにできればと思う。

4 その他

- 教育次長から、尼崎市立下坂部小学校 浄瑠璃クラブ・和文化クラブ・近松郷土学習～「近松さん」を通じて郷土を学ぶ～について説明。

以 上